

水源の森

夏

熱帯夜が続いたり、1ヶ月以上も雨が降らない所があるかと思うと、集中的に大雨の所があったりするこの頃の夏。

でも夏に林は静かです。遠くを見つめて深呼吸しましょう。

林は雑音を消し、気温を下げる効果もあったりするばかりでなく、浮世の煩惱を洗い清め、初心に戻って素直にさせるききめもあるみたいですよ。

水源の森の標高は、およそ900mから1,200m。温度は100mのぼるごとに0.6℃さがるといわれていますから、あなたの住んでいるところとは……？

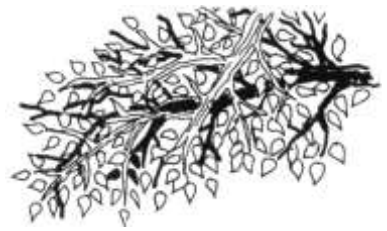
植物分布も、北へ行けば北方系のものに。標高差で1,000mは、北へ500kmの移動に相当するといえます。

ここ奥利根は関東地方だけれど新潟のすぐ近く。日本列島の分水嶺の直下みたいなものです。

気温が違えば、植物も、虫も鳥も、一味も二味も違うのかも知れませんよ！



林の道はいつもフワフワ



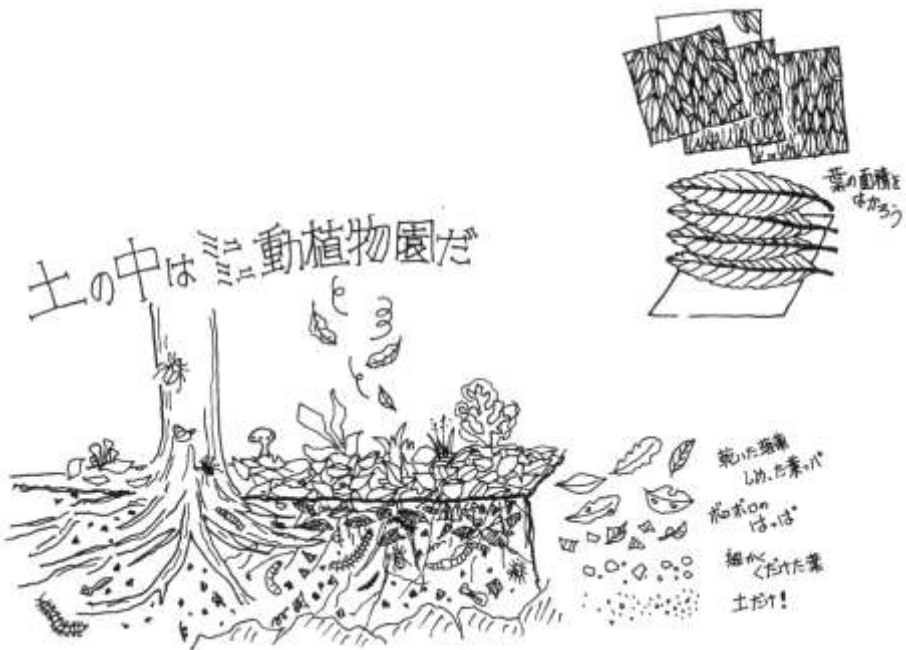
林の中の道を歩いていると、気持ちいい。何となく顔ほころぶ。遠い日のなつかしい記憶のようなやすらぎ。

林の中は静かです。涼しい。アスファルトの固い道、強い日差しにウンザリしていた心とからだをいやしてくれるのが林です。

空を見上げる。夏の光を受ける緑が逆光線のシルエット。針葉樹と広葉樹の枝ぶりの違いがよくわかります。

この葉っぱを地面に敷きつめると、どのくらいになるだろう。土の中の生きものたちが、落葉を少しずつ土に返して行く。

葉面積指数—— すき間なく葉を並べた時の枚数は、3-7ぐらいといわれています。



“緑のダム”といわれるわけは……

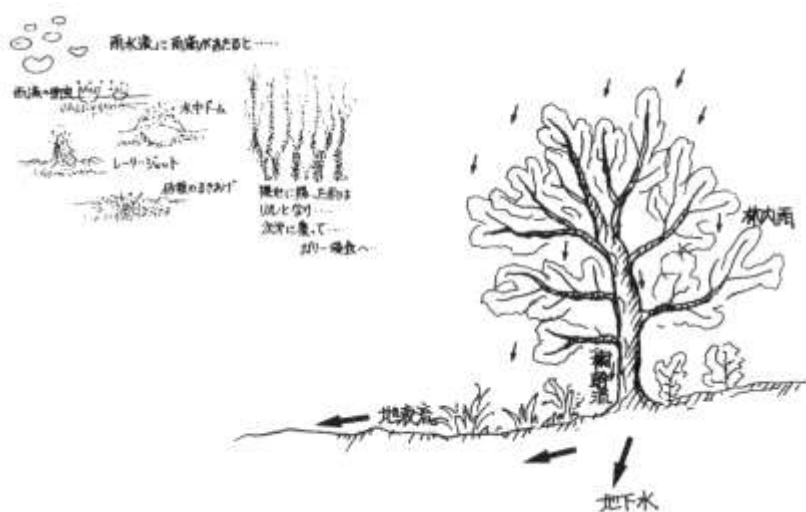
雨が降ると水たまりができる。赤土で粒が細かいか、土が固いからか。土の固さは、道具がなくても、鉛筆などを挿しこんでみれば、何cm入ったかでくらべることができます。

土の隙間は、空気や水の通り道。乾けば土の中へ新鮮な空気が入る。雨が降れば、そこが水の貯蔵庫に。

岩が細かく砕けたものが土の基本材料だけど、積もった落葉の破片がクッションの役割を果たしてくれます。

隙間が50%ある土が30cm積もっていれば、計算上は150mmの雨をストックできる！大雨が降っても、地表から川へ、海へといっしょに流れ出すのに時間差をつけてくれます。

森と海とは恋人同志。遠く離れているようで、深い深い仲です。



似ているみたいだけど 大違い！

どこが違うんです？ とよく聞かれるものに、トチノキとホオノキがあります。その気になって、1 つずつチェックすれば、どこもかしこもみんな違うのに。

誰でも知っているノバラやユリの花、ちょっと通り過ぎてから、“あれ、花びら何枚でしたっけ？”と聞くと、いろんな意見(?)がでたりすることも。

冬芽と幹の模様、花から果実へ、葉のつき方と落ちる時の順序、四季それぞれの表情を感じとってください。

ほお葉味噌、ほお歯（の下駄）、とちの実……などという言葉も。



この木は何歳 —— 年輪の話

見上げる巨樹、風雪に耐えた枝ぶり。何年ぐらいたったのだろう、と誰もが思うのですが——。

切株ならば、年輪を数えればわかる。生きている木はどうでしょう。

中心をめざしてドリルで直径分を細く抜き取る方法もありますが、何回もやりなおしたりして、あまりに残酷です。古文書の記録は、いま生えてるものと同じか、あとで植えたかの保証はないし。

春から夏への気候のいい時は、次々と細胞分裂し、大きい細胞が並ぶが、秋になると固く小さくなる。季節の区切りが年輪となります。

すると、1年中育ち続ける熱帯の木は、どうなるのだろう。寒いところでは間隔がせまいか？ すぐに大きくなる木の材は柔らかいのか？

木の種類による使い分けも、その地域の長い歴史と深く結びついています。



地元、藤原小学校の
こどもたちと古老の話を
まとめた木の本を
読みながら 実物で
確かめましょうー。
トチノキ p.21, 木オノキ p.25



スギの年輪とその拡大

いつもと違う 山のオキテも……

早起きは三文の得どころか、夏の早起きは絶対のおすすめです。山の緑は一段といきがよく輝き、昼間は気がつかなかった鳥のさえずりも。あれ、山にもカラスがいたんだ、などという平凡な新発見もあります。

双眼鏡は持っていなくても、フィールドノートは持ち歩いて、気づいたものをスケッチしましょう。カラスの声もカーカーとは限らない。50種類もの鳴きわけがあるといえます。鳥語にも、きっといろんな感情表現や方言やらがあるんでしょう。アクセントはどうかきましょうか？

自分たちで集めた情報は、確実にメモする習慣を。あとで確認するのに役立ちます。

それから、もし迷子のヒナや動物のこどもとめぐりあったとしても、絶対に捨ったりしないで！ 巣立ちのトレーニングなのかもしれない。どこかで親が心配している。自然の中できびしいおきてを感じとれるのもいつもと違う山での暮らしです。

まわりの風景と形の感じをスケッチしておきましょう。



夏の終わりは秋、そして冬から春への始まり

草いきれ、そして、つわものどもの夢のあと。高原のお花畑は夏山登山の楽しみですが、道ばたの夏草は見向きもされない……ではかわいそう！

春咲いた花は、去年の秋に芽生えてもう枯れてしまったか？（たとえば、あなたならどんな草を思い出しますか？） いま茂っている草は、去年からの続きか春に始まったものか？

畑では、南方系の果菜類の収穫が終り、秋から冬への野菜の始まり。春の七草が、みずみずしい緑のたべものだったのに対し、秋の七草は風になびくような、か細い野草たちです。

林の中で、もう来春の準備が進んでいる芽を見つけるかも。この暑さの中で、植物も虫たちも、季節の移り変わりを的確に予測し、冬への用意を始めています。



あの輝くようにみずみずしかった木々の緑も、今は一様に深い色に。低い位置で春を競っていた道ばたの花たちも、草いきれの季節になっています。

今年伸びた新芽はどの部分？ 何か月かたって、花はどう変身した？ 葉っぱの寿命を考えてみましょう。落葉樹は半年ぐらいか。常緑樹だって、永遠に不滅というわけにはいかない。せいぜい3年でしょか。

樹齢何百年といわれる巨木でも、わずか数歳の緑の生産人口(?) に支えられているんだ、と思うと不思議ですね。

そんな思いで仰ぎ見る木々の緑は、半透明のように葉脈の透けて見えるものや、光のすべてを受けとめて分厚いものなど、いろいろあるのに気がつきます。林の下のこもれ日、明るさも違う。

すると、茶色の幹の部分の役割はなんでしょう？ それは炭素の巨大な貯蔵庫！ それをずっと守り続けてきたのが、森林です！



文とイラスト 高野 史郎
表紙とかわいいイラスト 浦田 慈子

〒105-0014 東京都港区芝 2-4-3
三菱東京 UFJ 銀行芝ビル
TEL : 03-5730-0337 FAX : 03-5232-0312

公益財団法人 三菱UFJ環境財団